

(準備研究)

アニメ産業における制作者のキャリアとジェンダーに関する質的研究

松 永 伸太郎* 永 田 大 輔**

Shintaro MASTUNAGA Daisuke NAGATA

研究実績の概要

コンテンツ産業は、大企業・製造業を中心とした産業構造からの転換を背景とし、新たな経済を牽引しうる産業として学術的・政策的に注目されてきた。そうしたコンテンツ産業の中でも日本独自の発展を遂げてきたものとしてアニメ産業がある。アニメ産業に関する社会科学研究も蓄積してきているが、ビジネスモデルや産業構造に関する研究が主であり、制作者の労働を主題化した研究は少数に留まっている。とくに、若手においては女性が約半数を占めるなど、女性制作者が比較的多く存在するにもかかわらず、ジェンダー視点からの研究は乏しい。本研究は、女性アニメ制作者においてとくに顕著な問題となると思われる、キャリアとライフコースの問題に焦点を当て、インタビュー調査に基づいてその労働・生活経験を捉えることを目的としてきた。

本研究にあたっては、アニメ産業の業界団体である日本アニメーター・演出協会の協力を得て、女性アニメ制作者8名（アニメーター7名・色彩設計1名）へのインタビュー調査を実施した。年齢層は20～50歳代、既婚・未婚、子育て経験の有無など、ライフコース上の多様性を捉えられる調査設計とした。調査にあたっては、インフォーマントとの調整が難航したこともあり、2019年10月～2020年3月にかけて順次実施する形となった。

調査結果の概要は以下の通りである。基本的にどの対象者も、アニメ制作者としての仕事を継続することに志向しており、それを前提に自らのライフコース上の問題に対処していることが指摘できた。実際に子育て中であった2名は、結婚・出産にあつ

て働き方の変化を経験していた。子どもを保育園に送り迎えするなど、育児・家事との両立のための仕事の時間帯をそれに合わせ、仕事のスケジュールが変更されにくく在宅勤務が可能な柔軟な契約形態を選択していた。ただしこうした対応は一時的なものであり、子育てから手が離れれば正規雇用・フルタイムに近い働き方に移行することを2名とも希望していた。同じ業界にパートナーを持ちつつ未婚の2名は、将来的な結婚を見据えつつも、現状の働き方の不安定性を解消することが実際に結婚に踏み切るための条件であるとみなしていた。同様に、調査時には結婚を展望していなかった未婚の3名においても、現状の仕事を遂行することが目下重要な事案としてみなされており、それによって結婚は現実的な選択肢として浮上していなかった。残り1名は既婚で出産経験のない50歳代の対象者であったが、結婚による働き方における大きな変更は経験していなかった一方、親の介護を経験しており、その時期には仕事の遂行に影響があったことが語られた。さらに、自らの加齢を見据えて、勤務先に正規雇用化を打診し、受け入れられることによって安定的な労働契約を確保することも行っていた。

このようにして、これまで明らかにされてこなかった女性アニメ制作者のキャリアとライフコースに関する多様性を明らかにした。さらに、アニメ産業に特徴的な問題として、一般にライフコースの変化に伴って（とくに異業種への）転職を行うのではなく、あくまでアニメ制作者としての仕事に留まり、一時的な契約変更によって就業継続を図るという実践が見られた。このようにアニメ制作者としての仕

*企業情報学部助教 **明星大学非常勤講師

事に留まって生活を維持することが制作者内で重要視されているのは松永（2017）でも指摘したことであり、アニメ制作者一般にみられる特徴と女性のライフコースにかかわる特徴が交錯していることが確認できた。さらに、こうした柔軟な契約変更が可能である背景としてアニメ産業がフリーランスを中心としたプロジェクトベースの契約に依拠しているという点があるが、これは柔軟性であると同時に絶えざる仕事獲得を必要とするため、かえってライフコース上の選択を制約している側面も確認された。

こうした発見はアニメ産業の労働研究として独自のものであり、アニメ制作者の仕事に関する社会的

認識の拡張や、生活保障などを捉える政策的議論に大きく資すると考えられる。しかし、調査の実施に難航してしまい、研究期間を調査の遂行に費やしてしまったため、こうした成果の発表には至らなかった。この点については、令和2年度以降に学会発表ないしは論文化を行うこととしたい。

参考文献

松永伸太郎(2017)『アニメーターの社会学:職業規範と労働問題』三重大学出版会.